

生きものひたち紀行

教育・研究

課外活動

ボランティア

代表者：茨城大学理学部 3年 矢吹 健太

連携先

水戸市立博物館、茨城県植物園、水戸市立国田小中学校、清水洞の上を守る会、茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター

顧問教員

中村直美（教育学部・講師）

参加者

矢吹健太	（理学部	3年）
荒野勝幸	（理学部	1年）
宇賀神智晴	（理学部	1年）
戸室彰太	（理学部	1年）
松永夏希	（理学部	1年）
飯田睦	（農学部	1年）
斎藤悠太	（農学部	1年）
元吉杏那	（教育学部	1年）

プロジェクトの申請内容

夏、ホームセンターでカブトムシを買う子供を見かけた。すぐ近くの林にカブトムシはたくさんいるというのに……。近年、生息地の破壊や環境の変化により生きものの数は昔よりだいぶ減った。しかしちょっとした林や水辺を探してみると意外にも多くの生きものがいることに気づく。そこで本プロジェクトでは、市民にとって最も接する機会の多い自然環境である公園や緑地に注目し、そこに

住む生きものを紹介する生きものマップを作成している。こういった場所は歩道やトイレ、駐車場などが比較的整備されており、家族連れや子供たちでも気軽に安心して行くことができる。

◆プロジェクト概要

本プロジェクトは、緑地や公園など身近な自然環境の生物層を調査し、調査地ごとにパンフレット（生きものマップ）にまとめ、博物館や図書館に配布することが主な活動であり、パンフレットを手にとった子供たちの自然に対する関心を高めることが本プロジェクトの最大の目的である。

本プロジェクトでは県内の博物館やボランティア団体などと連携することで、情報の共有を図るとともに、パンフレットの質の向上を目指す。

◆本年度の活動

今年で4年目となる本プロジェクトでは、新しい調査地の設定、パンフレットの質の向上、科学イベントへの積極的な出展、協力先との連携強化に重点を置き活動を行った。

調査地は逆川緑地（水戸市）、七ツ洞公園（水戸市）、清水洞の上公園（那珂市）、県民の森（那珂市）の4か所であり、調査期間は5月～1月の9カ月間である。パンフレットは1月から2月にかけて作成し、今後各連携先に配布する。

◆期待される成果

主に以下の3つが挙げられる。

- ①生きものマップによって緑地や公園がより多くの方々に認知され、利用率の上昇が見込まれる。
- ②連携先（博物館やボランティア団体）を生きものマップに記載することで、連携先の宣伝・活動への理解・行事参加者の増加などが期待できる。
- ③生きものマップの配布や科学イベントへの参加を通じて、子供たちに自然科学の魅力を伝え、地域の自然を紹介し郷土への愛着を持ってもらう手助けができればと思う。

プロジェクトの実施概要

主な活動内容は以下の通りである。

・生物相の調査・生きものマップの作成

今年度は水戸市の逆川緑地とセツ洞公園、那珂市の清水洞の上公園と県民の森の調査を5月～1月にかけて行い、4か所の生きものマップを1月～2月に作成した。逆川緑地は昨年度から引き続き調査。



↑調査の様子（清水洞の上公園）

・青少年のための科学の祭典への出展

今年度はひたちなか大会（11/3,4）と日立大会（12/5）に出展し、手羽先を用いた骨格標本作り、地域の生物の標本展示を行った。3日間で約90人の子供達に骨格

標本作りを体験してもらった。



↑科学の祭典の様子（ひたちなか大会）と作成した骨格標本

・観察会への参加

8/5に水戸市立博物館主催の昆虫採集・標本作り教室にアシスタントとして参加した。



↑昆虫採集。観察教室の様子

プロジェクトの成果報告

本年度のプロジェクト活動による主な成果は以下の通りである。

●自然科学に対する興味の向上

科学の祭典や昆虫採集・標本作製教室への参加や調査地でのふれあいにより、子供たちに直接生物や自然の魅力・面白さについて伝えることができた。



↑調査中に子供達と生きもの探し

●生物調査と調査記録の活用

5月～1月にかけて逆川緑地、七ツ洞公園、清水洞の上公園、県民の森に生息する生物を調査し記録した。調査地の中には生物の調査があまり行われていない所もあり、当プロジェクトの調査記録が役立てられればと思う。調査記録はブログで公開することで、より多くの人に地域の自然について情報を発信できるよう配慮した。



↑生きものひたち紀行のブログ

●生きものマップの作成

調査記録を元に4種類の生きものマップを作成した。今年度から魚類の調査や冬期の生物調査も行い、より網羅的なマップ作成に努めた。過去のマップから改善した点は以下の通りである。

- ・連携先の記載
- ・構成の統一
- ・ルビの追加
- ・イラストの追加
- ・内容のさらなる充実

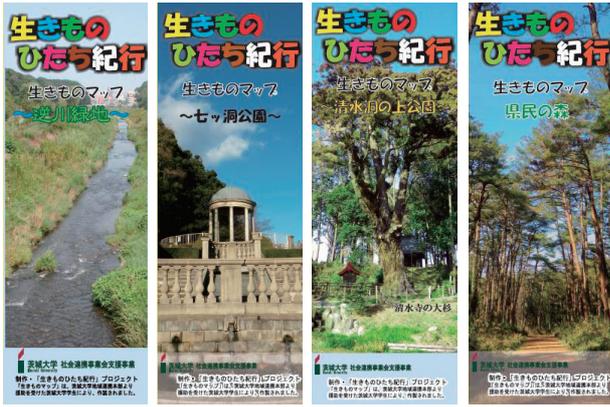
連携先を載せることで、マップの信頼度を上げるとともに、地域と連携した活動であることをよりアピールすることができる。また生きものマップの対象は小中学生であるため、イラストや写真を多く使い、一部の漢字にルビをつけた。これにより小学生にも分かりやすくした。中学生が見ても面白いと思えるよう少し踏み込んだ内容も載せるとともに、マップ毎にテーマを設定し差別化を図った。

生きものの探し方や見分け方など、野外で役に立つ情報を載せることで、実際にマップを持って子供たちが生きもの探しに出かけることを期待する。

●協力先との連携

今年度は調査地と関係のある機関や団体を中心に新たな連携先を獲得するとともに、昨年度以前からの連携先とは連携強化を行った。

当プロジェクトからはイベントの手伝い、希少種などの生息情報の提供、施設や団体の宣伝を行い、連携先からは写真の提供や動植物の同定をしてもらうことで、マップの質を向上させることができた。



表

裏



↑作成した生きものマップ

逆川緑地 テーマ：黒いアゲハ



セツ洞公園 テーマ：トンボと水域の生物



清水洞の上公園 テーマ：夏と冬の生物



県民の森 テーマ：野鳥と樹液に来る昆虫

